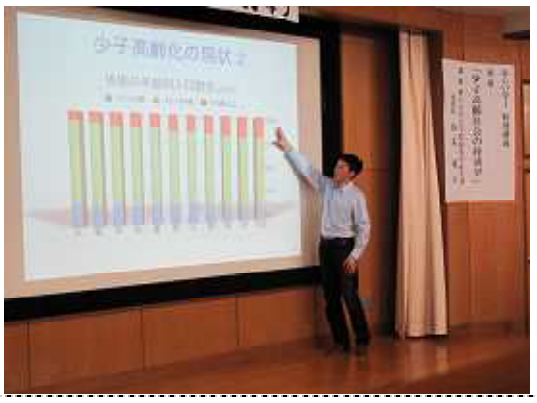
文理科学科通信
京都府立福知山高等学校

経済学からみる少子高齢社会

―多様な社会現象を多方向から考察―

６月12日、金曜日３・４校時のみらい学Ⅰにおいて、経済学に関する特別講義を実施しました。講師として、**神戸大学大学院経済学研究科准教授　鈴木　純　氏**をお迎えし、「少子高齢社会の経済学」について御講義いただきました。講義の内容には、「少子高齢化社会」と「少子高齢社会」の違い、日本の少子高齢化の特徴、要因、影響などについて、経済学との関連について、講義していただきました。

少子高齢化問題を一気に解決する方法は、見つからないけれども、**「少子化をくい止めるにはどうすればよいか」「人々の経済活動は、今後どのように変化をするか」、「人口が減少する中で、労働力の確保はどのように進めて行くか」、「長期的な日本経済の動向はどのように推移するか」、「社会保障制度は今後どのように改革していくのか」**など、一つ一つについて、しっかりと検証し、的確な政策を実行していくことが、解決につながることを教えていただきました。



最後に、社会保障制度の意義、市場と政府の役割についても、触れられながら、これらすべての問題・課題ともが経済学の対象であること、様々な仕組みを考察する「理論」、現実を把握する「実証」をもとに、問題を解決していく「政策」に結び付けていくことが重要であることを教えていただきました。

また、今回の特別講義をもとに、グループでの研究活動を開始しました。今回、研究のテーマとして５つのテーマをいただきました。

「少子化・高齢化」
「社会保障政策」
「市場の失敗」
「大きな政府と小さな政府」
「福祉国家の限界」

今回の特別講義は、専門的な用語や考え方の多い学習内容が含まれるため、現代社会やみらい学Ⅰの授業を通して、経済学の基礎について事前学習した成果もあり、理解を一層深めることができました。

（桃映中学校出身）

「少子高齢化はだめだ、問題だ。」という言葉は色んなところで何度も聞いた。けれど「老人が増えたからって何の問題があるんだ？子供が減るのは数十年後に困るからわかるけど…」と、私は特に問題視していなかった。

今日の講演にあたり、家族に聞いたり調べてみたりした結果、現役世代の負担という漠然とした問題に加え、労働力の減少、貯蓄率の低下、消費の減退という問題の可能性があることがわかった。

これらによる経済活動の縮小と、社会保障制度に生じる諸問題による社会の不安定化など経済的な面から見ただけでも問題はある。今回の話をこれからのみらい学に役立てたい。

（成和中学校出身）

少子高齢化は、解決するのが本当に難しい問題なんだと改めて思いました。経済発展にともなう医療の発達などで、日本の平均寿命が延び、高齢者の数がどんどん増えていく中で、少子化が進んでいます。政府は、それに対して、いろいろな対策をとろうとしますが、日本に住んでいる全ての人が満足できる解決策を見つけることはとても難しいようです。また、政府とも企業とも違う立場で、活動しているＮＰＯが、第３の経済として活躍しているということもわかりました。

社会の問題を考えるとき、新しい視点で物事を考えることも大切なんだなあと思いました。

（中略）私たち高校生が社会に出て働くようになったとき特に身近にせまる問題だったので、すごく興味関心を持って聞けました。内容は少し変わるけど、グループでの学習のときに今日学んだことを生かしていきたいです。

京都府立福知山高等学校
〒620-0857 福知山市土師 650、tel.0773-27-2151
電子メール：fukuchiyama-hs@kyoto-be.ne.jp
ホームページ：http://www.kyoto-be.ne.jp/fukuchiyama-hs/